

養育館と養育院

櫻園通信 75 令和4年3月
東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先: 老年学情報センター

宮本孝一 老年学情報センター

明治五年、渋沢栄一（三十二歳）はまだ実業家ではなく、大蔵省の役人でした。渋沢栄一の上司は大蔵大輔（大蔵省次官）の井上馨です。



井上 馨



渋沢栄一

同年、井上馨は、幕府の救済基金「七分積金」を資金にして首都東京の道路や橋梁などの整備を進めようと考え、そのための団体「営繕会議所」を立ち上げました。

また同年、東京府知事に就任したのが大久保一翁。江戸城の無血開城の際は幕府側の代表者でした。幕府の「七分積金」を新政府に引き渡したのも大久保一翁です。



大久保一翁

明治時代のはじめ、東京には幕府瓦解により収入を失った失業者が浮浪者となって町中にあふれていました。七分積金は本来は困窮者の救済の資金であり、インフラ整備の資金ではありません。

大久保一翁府知事は、東京の浮浪者の救済をどうしたらよいか営繕会議所に諮問しました。

知事の諮問をうけ、営繕会議所はすぐに、失業対策や困窮者の保護施設のプランを答申しました。

同時期にロシア皇子の来日に際して浮浪者の強制収容が実施されました。

このとき集められた人々を収容する施設が、そのまま営繕会議所の答申にあつた保護施設となりました。

明治五年、営繕会議所が運営する施設「会議所附**養育院**」の始まりです。

翌明治六年。大蔵省の井上馨と渋沢栄一は過大な支出を求める各省と対立し、二人いつしよに大蔵省を辞職。渋沢は実業家に転身すると同時に、大久保一翁の働きかけで営繕会議所の経営立て直しに取り組みます。

明治九年に会議所が無くなると、渋沢栄一（三十六歳）は養育院運営の代表者になり、その後九一歳で没するまで養育院の代表を続けました。



養育院に建立された
渋沢栄一院長の銅像

さて、営繕会議所設置・大久保一翁の府知事就任・養育院創設と続いた明治五年。大蔵省には、**井上馨**・伊藤博文・**渋沢栄一**・**松方正義**・得能良介・郷純造・吉田清成・陸奥宗光・芳川顕正・田中光顕・前島密・中品信行・星亨など、政・財・官界の中心になる人材が集まっていました。



松方正義

のちに日本銀行を創設し、総理大臣を二度務めた**松方正義**は、大蔵省の仕事に就く前は明治三年まで日田県（大分・福岡）の県知事でした。

松方正義知事は、飢饉が多かった日田に間引きや捨て子の悪習が続いていることを知り、地元の医師とともに、捨て子や孤児を集めて育てる施設を作りました。明治二年に作られたその施設は**養育館**と命名されました。明治四年、松方は、井上馨が実質的なトップとなっていた大蔵省に入省し、地租改正に取り組みます。



大蔵省と内務省(明治10年)

養育院
養育館



養育院の名の由来は、松方正義が創った**養育館**でしょうか？

幕末、大久保一翁ら開明派は、西欧の救貧施設「貧院・病院」の知識をもっていました。一翁はその知識を元に「病病院」のプランを作り、幕府に提案しています。実現しませんでした。

養育館と・・・**院**（西欧の救

貧施設の名称）を併せて、**養育院**としたのでしょうか？ そうだとすると、養育院という名前を決めたのは誰でしょう？

養育院命名の経緯は記録が残されておらず、真相は不明です。